

ひびき灘戦略室について

資料 1

- ✓ 「港湾」「産業」「環境」を「まちづくり」で統合
 - ✓ GXやDXをチャンスに、響灘地区のポテンシャルを最大化
- ⇒ 世界中から企業や人が集まる国際戦略拠点へ



響灘地区のポテンシャル（充実した港湾施設、広大な産業用地）

風力発電関連産業の総合拠点化

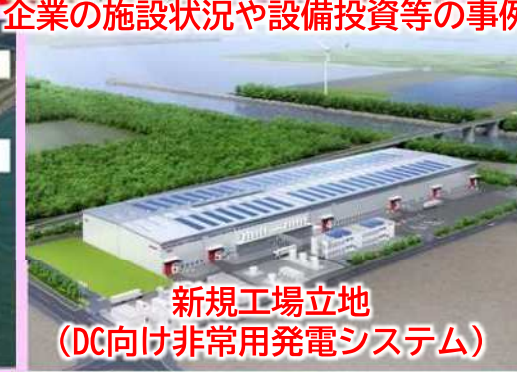


ひびきウインドエナジー
㈱提供

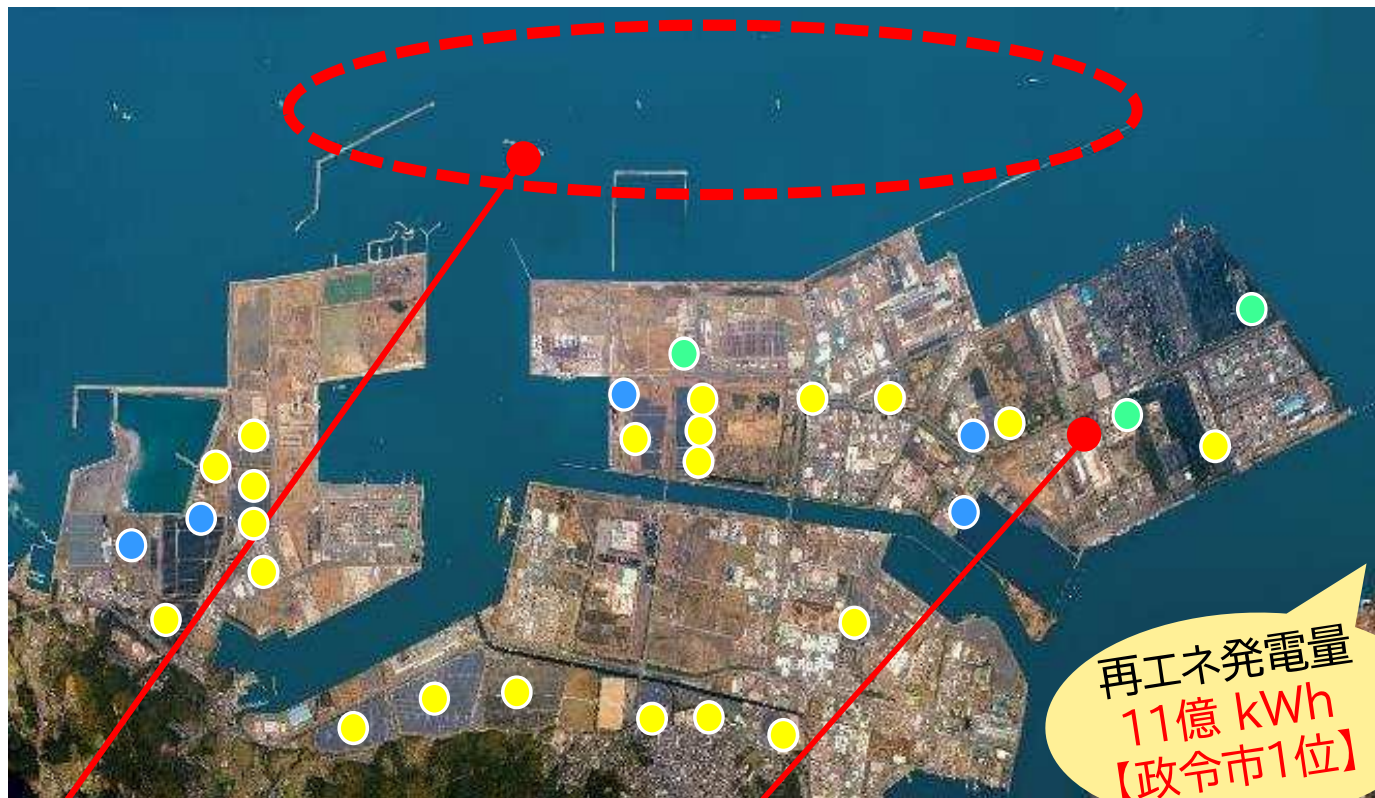
リサイクル産業の集積



企業の施設状況や設備投資等の事例



響灘地区のポテンシャル（再生可能エネルギーの集積）



再エネ導入容量

太陽光発電
327,441kW

風力発電
36,290kW

バイオマス
発電
94,810kW

※FIT認定情報

再エネ発電量
11億 kWh
【政令市1位】

響灘洋上ウインドファーム



バイオマス発電の専焼化



更なる再エネの増加



ひびきウインドエナジー(株)

2025年度運転開始

- ✓9.6MW×25基
- ✓最大出力220MW
- ✓年間発電量
約5億kWh



(株)響灘火力発電所

2026年度本格稼働

- ✓112MW
- ✓年間発電量
約8億kWh

332MW

約13億kWh

響灘地区の現状と検討課題

【現状】エネルギーの供給拠点としては一流だが、・・・

- 個別最適の壁：企業間のつながり不足。小規模企業者のDX/GX余力不足。
- アメニティの空白：エリア面積2,000haに飲食店2軒。投資・採用に悪影響。
- 統計の死角：把握されない「数千人の下請け・流動ワーカー」の存在。
- 労働観の硬直：「DXより人が安い」という思考停止による、人手不足の深刻化。

一方、国内外で、
「企業間連携」や「アメニティ」が実装した、選ばれる産業団地づくりが進む



海外事例：デンマーク
カルンボー・シンバイオシス
電気・熱・水・廃棄物の企業間融通が
実装した産業団地



海外事例：シンガポール
ジュロン・イノベーション・ディストリクト
「製造・R&D・学習・生活」を一体化した
都市型産業団地



国内事例：熊本県
（仮称）三井不動産サイエンスパーク
熊本プロジェクト
生産・物流・研究施設・ラボ機能を備えた
コミュニティーの形成

響灘スマート・インダストリアル・パーク(SIP)への挑戦

～企業間の壁を越え、データとフィジカルAIで「次世代のSIP」へ再生～

【検討課題】 デジタル×グリーン×デザインによる変革

※生成AIによるイメージ

①B2Bアセット共有

電力・熱・モビリティを「相乗り」し、
地区全体を効率化



製造業×サービス業

②フィジカルAI実装

多言語・身体支援により、
誰もが高度に働ける現場を創出



③都市OS実装

都市OSで潜在需要を可視化し、
民間サービスの進出を加速



選ばれる
次世代SIPへ！

④SIPデザイン

働く人が誇りを持てる景観、
高度人材を惹きつける就業環境を創出。



実現に向けた取組み（検討の時間軸別）

✓ 【短期：3年後】 働く環境のWell-being向上

- ・ 交通渋滞対策（共同送迎バスの検討）
- ・ 就業環境の改善（利便施設の検討） など

⇒ **響灘地区まちづくり推進連絡会議**
KitaQ共創PORTで共創パートナーづくり

✓ 【中期：10年後】 ビジネス基盤の拡張（次世代アセットへの転換）

- ・ ポストFITを見据えたメガソーラー用地の高度利用
- ・ 低利用資産・埋立地の早期活用 など

✓ 【長期：20年後】 次世代SIPの創造

- ・ 産・学・官による『次世代のインダストリーパーク』を創造

「ひびき灘×データ×テクノロジー」で共に未来を創る

自己紹介



家入 祐也

(いえいり ゆうや)

早稲田大学
情報生産システム研究科
准教授

専門

Humanity-Centered Interaction
社会情報学・社会システム工学

「人」を起点に社会を考える！

これまでの取り組み事例

商店街（@新宿区）

産官学連携で地域活性化に関する研究活動
（例）顧客行動分析・地域MAPの作成

観光地（@指宿市）

産官学連携で観光振興に関する研究活動
（例）観光行動設計・観光体験の評価



共に対話

枠にとらわれずに
常日頃感じている
課題や問題を共有

地域の理解深化



共に整理

集めた課題や問題を
多様な観点から
グルーピング

地域課題の体系化



共に思考

受容性と可能性の
両観点から
課題解決案を検討

解決策の検討